

まとあと ver.0.9.2 変更点

ななみん

2020 年 10 月 1 日

1 初めに

まとあと ver.0.9.2 で変更、追加された機能について解説します。今回の更新では参考文献周りをアップデートしました。それにより今まで使いにくかった BiBTeX を利用可能にしました。以下が追加された機能です。

1. カレントディレクトリに存在する写真 (eps,jpg,png) を全て「picture」フォルダへ移動
2. BiBTeX への対応
3. (参:Label) と書かれた物を (存在するかは問わず) 全て\cite{Label}へ変換
4. bib に追加したい文献を txt で記述した場合、自動でエントリタイプを判別、bib に追加
5. 括弧とダブルコーテーションで囲われた文字を括弧の後にスペースを入れないように (未)

2 BiBTeX について

BiBTeX とは論文のデータベースです。予め BiBTeX へ書き込んだ文献情報から、本文中で参照すると自動で参考文献が書き込まれるプログラムです。引用した文献をいちいち探す必要がなく便利な機能です。BiBTeX では article や book など様々なエントリタイプが用意されており、それぞれのエントリタイプに対して、author や title などのエントリにそれぞれ著者や題名などを書き込み、BiBTeX のスタイルファイル bst ファイルでそれぞれのエントリタイプに必要なエントリだけ整列して本文中の参考文献のところに書き込みます。次の例を考えます。

```
@article{Label,  
  author={近大, 太郎 and Kindai, Hanako and Kennedy, John Fitzgerald},  
  title={近大の歴史について},  
  journal={近畿大学},  
  volume={11},  
  number={22},  
  pages={33--44},  
  year={5678},  
}
```

すると本文中でこの文献を引用し「myjunsrt.bst」を用いた場合、参考文献のところに次のように表示されます。

[1] 近大他, 近大の歴史について, 近畿大学, Vol. 11, No. 22, pp. 33 – 44, (5678).

2.1 まとあとで使う

BiBTeX をまとあとで使うには以下のように本文中で書き込みます。

参考文献：bib file name : bst file name

コロンは全角で記述してください。bst ファイルの記述をしなかった場合、「junsrt.bst」が読み込まれます。

本文中で参照する場合は、これまで通り（参：Label）と書きます。ここで本バージョンより（参：Label）と書かれた物は全て\cite{Label}に変換します。これまでは「参考文献：」の後に書かれたラベルの物しか\cite{Label}へ変換しませんでした。しかし BiBTeX を用いた場合通常、一つも文献を書かないため、どれも変換されず不便です。そのため全て全角括弧で囲まれた「参：」は全て変換することにしました。今後のバージョンで事前に「bib ファイル」のラベルを読み込み、そのラベルに合致した物だけをラベル変換するようにされることを望みます。

2.2 まとあとで bib へ追加

2.1 節では事前に「bib ファイル」に書き込まないと引用できない方法でした。それでは「txt ファイル」だけで完結しないため、面倒です。そこで「txt ファイル」から「bib ファイル」へ書き込めるようにしました。具体的には次のように書きます。

参：Label)\t 作成：近大 太郎、Kindai Hanako,Kennedy John Fitzgerald
\t 題名：近大の歴史について\t 雑誌：近畿大学\t 巻数：11
\t 号数：22\t 頁数：33--44\t 年：5678

例では改行されているように見えますが、実際には一行に書いてください。基本的にはエントリの後に全角コロン、内容を記述してください。筆者だけは次のルールに則って記述してください。

- ・ 姓名の順で記述 (英語の人も)
- ・ 姓名の間はスペース (全角半角問わず)
- ・ 人物間は半角カンマもしくは全角読点
- ・ ミドルネームは名前の後にスペースを入れて記述

また\t は水平タブを表します。表 1 に用意したエントリの変換表を示します。これらを組み合わせ上のように書く必要があります。作ってあれですが、覚えるのが大変なので bib へ直接書き込む方が早いと思います。

Table 1 エントリ変換表

txt 内での記述	bib 内での表記	備考
作成：	author	
題名：	title	
雑誌：	journal	
巻数：	volume	これが含まれると「@article」に振り分け
号数：	number	
頁数：	pages	
年：	year	
出版：	publisher	これが含まれ「号数」が含まれないと「@book」に振り分け
発表：	presentation	「myjunsrt.bst」が必須。「@conferencearticle」に振り分け
URL：	url	「myjunsrt.bst」が必須。「@myurl」に振り分け
参照：	refdate	「myjunsrt.bst」が必須。

3 最後に

これで参考文献の挿入に困ることがなくなると思います。またこれまで通りの参考文献の書き方をしたい場合今まで通り、

参考文献：

Label1) 文献の内容

Label2) 文献の内容

とかけば今まで通りの挙動をします。